



校長通信

尾花沢を背負って立つ学校～自分たちで創り上げるシン尾花沢中～

輝け！シン尾花沢中

伸びよとさそう 常若の ああ尾花沢中学校

第146号

令和7年

12月16日

尾中生と同窓生が「幸せ」について語り合った日②～おもだか塾～

前号に引き続き、今号でも12月11日（木）に行われた「おもだか塾」の第1部における尾中生の感想を紹介します。また、同窓生の感想も紹介します。

■尾中生の感想

三浦龍空さん（1年）：「尾花沢の未来は君たちにある」と言われたので、もっと盛り上がる尾花沢にしていきたいと思いました。

五十嵐明希歩さん（2年）：今感じている幸せと将来感じる幸せは違うことを教えていただいたので、今できることを精一杯やりたいと思いました。みんなが幸せになれるように相手の話をしっかり聞いて自分ができることを少しずつしていきたいです。

遠藤美緒果さん（2年）：「辛いことこそ幸せ」という言葉が印象に残りました。辛いことがないと幸せを感じることはできないという新しい考え方を見つけることができました。

尾崎有沙さん（3年）：「人に優しく接することで愛の心を持ち、自分自身も愛せる」と教わったので、私も心がけようと思いました。

森 貫太さん（3年）：「何気ない日常に幸せを感じる」と聞き、現在不自由なく生活できていることに感謝しようと思いました。

■同窓生の感想

○生徒たち全員がしっかりと自分の考えを持っていて感心しました。同じ年代同士の語り合いと同じかそれ以上に、大人の先輩方と違う視点で語り合う機会は、気づくことがたくさんあり、心の成長につながると思います。とても良い企画だと思います。尾花沢では少子化人口減少が進み、店も減り、「無い」ことへ目を向けがちですが、実際1万2千人もの人が暮らし、自然豊かでスイカがあり、花笠があり、徳良湖があり、あたたかい人々がいて…。そんな「ある」ことへ目を向けて、明るい気持ちで楽しく暮らしていってほしいと願っています。今日はありがとうございました。

○自分の夢を持って意見を言える後輩たちで尾花沢の未来も明るい、と思いました。

○今回話し合いに参加させていただいて、生徒一人ひとりの考え、意見がしっかりとしていて驚きました。チャットGPTよりすごい答えが皆から返ってきました。

○未来ある子供たちと対談し、必要な価値観や感性が育まれていると感じました。

次号も、I部における尾中生と同窓生の感想を紹介します。



【文責：校長 工藤雅史】